

第3部 年齢から見た事故

ここでは、年齢層別での比較や乳幼児、就学区分、成人、高齢者などの年齢区分ごとに事故の傾向や事故の要因等を取り上げています。

1. 年齢区分から見た事故

㊦ 0歳～5歳（乳幼児）の事故

① 0歳～5歳

ア 年別搬送人員

0歳から5歳までの乳幼児の事故で、令和2年から令和6年までの5年間に44,576人が救急搬送されています。

令和6年は9,127人が救急搬送されています（図3-1）。

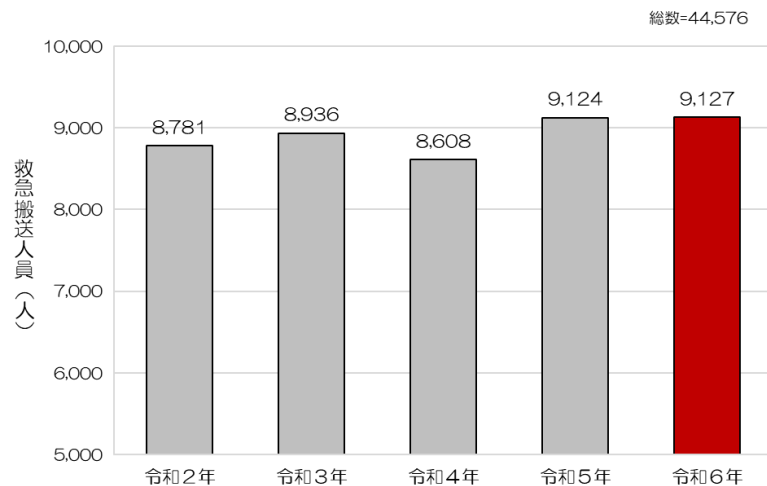


図3-1 年別の救急搬送人員

イ 年齢別搬送人員

年齢別では、1歳児の救急搬送人員が2,065人と最も多く、次いで2歳児が1,793人となっています（図3-2）。

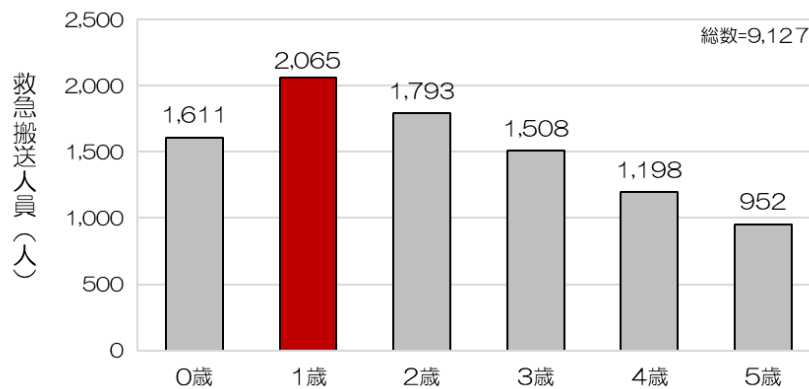


図3-2 年齢別の救急搬送人員

ウ 時間帯別搬送人員

時間帯別では、19時台をピークに多く救急搬送されています（図 3-3）。

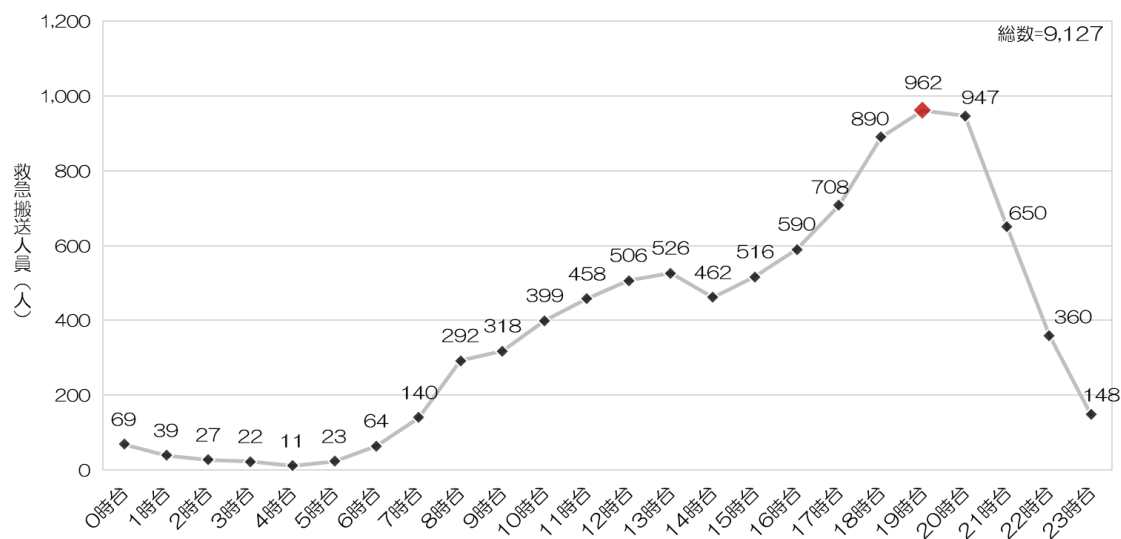


図 3-3 時間帯別の救急搬送人員

エ 発生場所別搬送人員

7割以上が住宅等居住場所となっています（図 3-4）。

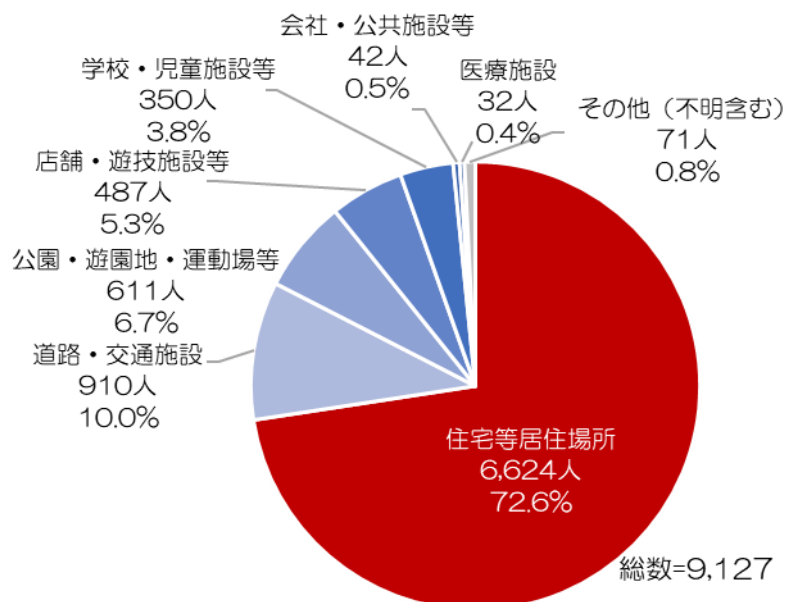


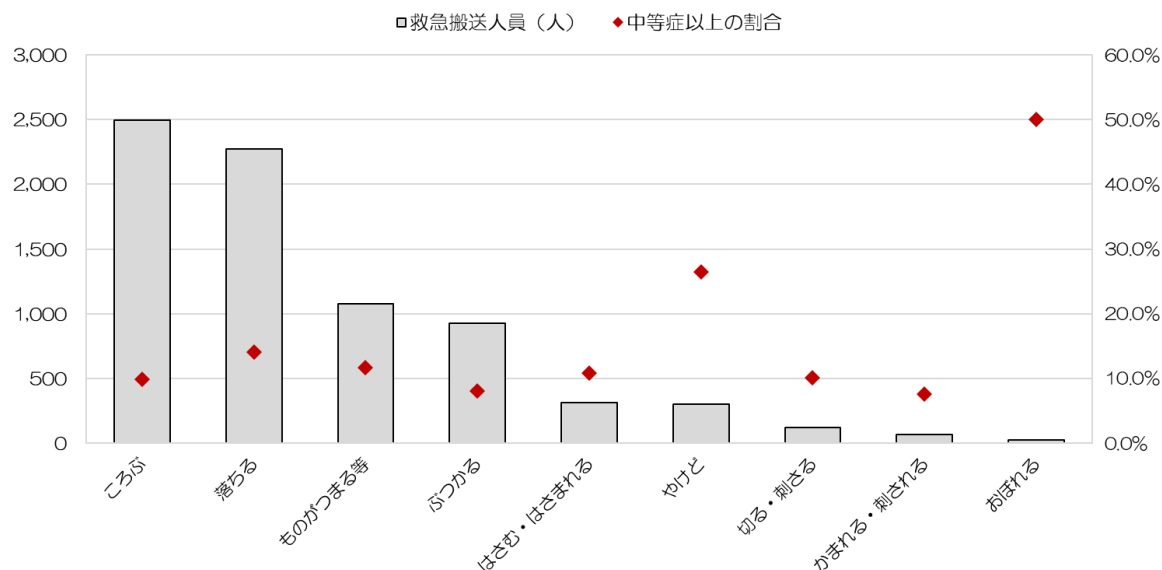
図 3-4 発生場所別の救急搬送人員

オ 事故種別ごとの搬送人員

もっとも多いのは「ころぶ」事故で、**2,496人**が救急搬送されています。

中等症以上の割合が最も高いのは「おぼれる」事故で、**約5割**と突出して高くなっています。

「やけど」でも**2割以上の方が中等症以上**と診断されています（図 3-5）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ものがつまる等	ぶつかる	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	2,496人	2,271人	1,078人	926人	315人	303人	119人	66人	22人
中等症以上の割合	9.8%	14.0%	11.7%	8.1%	10.8%	26.4%	10.1%	7.6%	50.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図 3-5 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

カ 年齢ごとに見る特徴的な事故の変化

乳幼児は日々成長し、昨日できなかったことが、今日できるようになっているかもしれません。こどもの発達を知り、その時期に起こりやすい事故を知り対策をとることで、重大な事故を防ぐことが出来ます。

0歳

ベッド（176人）や、人（69人）が抱いている状態から「落ちる」事故が多く発生しています。

包み・袋（74人）、たばこ（60人）を「誤って飲み込む」事故も多く発生しており、なんでも口に入れてしまう特徴が見てとれます。

ポット・魔法瓶（20人）や味噌汁・スープ（13人）などの熱い液体で「やけど」をする事故も発生しています。

1歳

一人歩きを始める頃で、「落ちる」事故、「ころぶ」事故ともに階段（落ちる：124人、ころぶ：6人）、椅子（落ちる：61人、ころぶ：35人）が関連する事故が多く発生しています。

食物（44人）や、たばこ（33人）を「誤って飲み込む」事故も多く発生しています。

手動ドア（42人）に「はさむ・はさまれる」事故、食器類（19人）などによる「やけど」の事故など、様々な事故が発生しています。

2歳

「ころぶ」事故、「落ちる事故」とともに階段（落ちる：116人、ころぶ：12人）が関連する事故が多く発生しています。

机・テーブル（28人）にぶつかる事故や手動ドア（32人）に「はさむ・はさまれる」事故、カップ麺・熱湯（各6人）に起因する「やけど」の事故も発生しており、注意が必要です。

3歳 | 5歳

椅子（51人）や段差（48人）で「ころぶ」事故が多く発生しています。

階段（178人）や椅子（69人）から「落ちる」事故も多く発生しています。

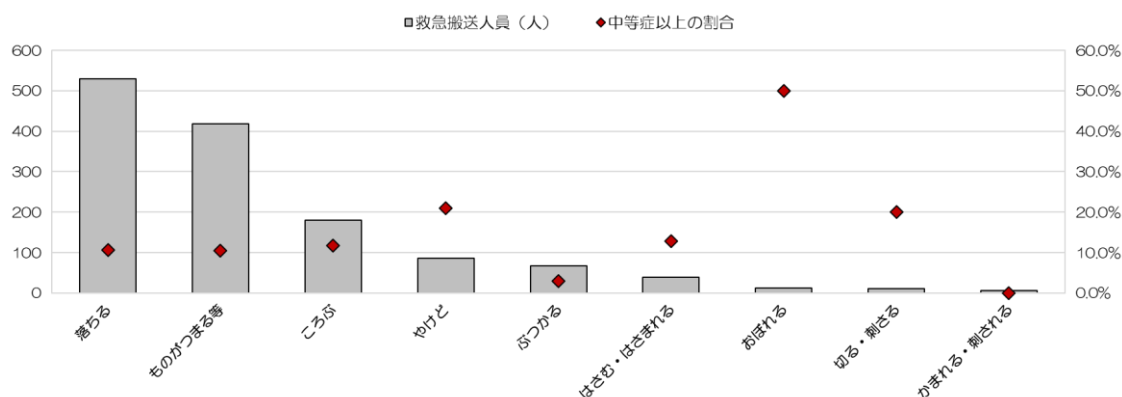
アメ玉類（34人）などを「誤って飲み込む」事故や、ナイフ（17人）による「切る・刺さる」事故が発生しており、注意が必要です。

② 0歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

「落ちる」・「ものがつまる」事故で900人以上が救急搬送されています。

「おぼれる」事故は、中等症以上となる割合が約5割と最も高くなっています（図3-6）。



事故種別	落ちる	ものがつまる等	ころぶ	やけど	ぶつかる	はさむ・はさまれる	おぼれる	切る・刺さる	かまれる・刺さる
救急搬送人員	529人	418人	180人	86人	67人	39人	12人	10人	6人
中等症以上の割合	10.6%	10.5%	11.7%	20.9%	3.0%	12.8%	50.0%	20.0%	0.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図 3-6 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

0歳では、ベッドから落ちる事故が最も多く、176人が救急搬送されています。

「ものがつまる」等の事故ではつつみ・袋やたばこの誤飲による事故が多く発生しています（表3-1）。

表 3-1 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

順位	種類	落ちる	ものがつまる等	ころぶ	やけど	ぶつかる	はさむ・はさまれる	おぼれる	切る・刺さる	かまれる・刺さる
1位	ベッド	176人	包み・袋	人	ポット・魔法瓶	人	人	浴槽	ハサミ・爪切り	動物等
	人	69人	たばこ	その他の家具	味噌汁・スープ	その他の家具	手動ドア	石鹸	ナイフ	各2人
2位	階段	46人	その他の玩具	ベビーカー	お茶・コーヒー類 食器類 熱湯	机・テーブル	椅子	シャワー	ホットプレート 日用品 文房具 針金	虫 串・楊枝
	ソファ	37人	食物	椅子		手動ドア	2人	1人		各1人
3位	椅子	26人	電池	ベッド	各9人	浴槽	ソファ ベッド			
						3人	各1人		各1人	

※「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、ガラス棚等

※「ぶつかる」におけるその他の家具とは、鏡、テレビ台等

※「ものがつまる等」におけるその他の玩具とは、プラスチック製の玩具やフィギュア、シール等

ウ 0歳の事故事例

【事例1 ソファから転落】

母親がトイレに行くため、こどもをソファの上に寝かせ、トイレから帰ってくると、床上におり泣いていた（3か月 中等症）。

【事故防止ポイント】

ベッドやソファ、階段などから「落ちる」事故が多く発生しています。

昨日までできなかった寝返りが、今日できるかもしれません。

- ✓目を離すときはベビーベッドの柵を上げましょう。
- ✓高い所に寝かせないようにしましょう。
- ✓階段の上下には、転落防止用の柵等をつけましょう。

【事例2 ラベルを誤って飲み込む】

男児が誤ってペットボトルのラベルの一部を飲み込んでしまった（11か月 中等症）。

【事故防止ポイント】

乳幼児は、目安として標準的なトイレットペーパーの芯（39mm）を通る大きさのものなら、口に入れてしまい飲み込む危険性があります。

早い子では、5か月頃から「物をつかむ」、つかんだら「口に入れる」行動が見られます。

- ✓成長段階に応じ、食べ物は適切な大きさに切る、つぶす等をして食べさせましょう。
- ✓こどもが飲み込めそうなものがこどもの届くところないように、日頃から整理整頓をこころがけましょう。

【事例3 入浴中におぼれる】

浴室にてベビーバスで入浴中、親がその場を離れ、数分後に浴室に戻ったところ、溺水していた（3か月 中等症）。

【事故防止ポイント】

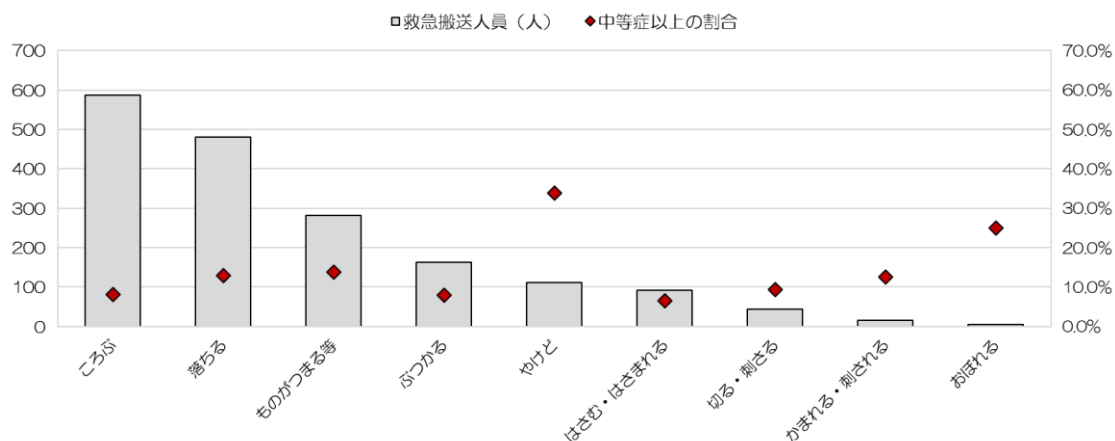
おぼれの事故の多くは家庭のお風呂で発生しており、重症化しやすいため、十分気を付けましょう。

- ✓こどもは大人の後に浴室に入れ、先に浴室から出しましょう。
- ✓大人が髪を洗う時は子供を浴槽から出しましょう。
- ✓入浴後の浴槽の水は抜きましょう。

③ 1歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

歩く、走る、といった行動ができるようになる時期なので、0歳に比べ、「ころぶ」事故件数が約3.3倍になっています。(図3-7)。



事故種別	ころぶ	落ちる	ものがつまる等	ぶつかる	やけど	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	かまれる・刺さる	おぼれる
救急搬送人員	587人	480人	281人	163人	112人	92人	43人	16人	4人
中等症以上の割合	8.2%	12.9%	13.9%	8.0%	33.9%	6.5%	9.3%	12.5%	25.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-7 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因(上位5つ)

階段、椅子等から「落ちる」事故が多く発生しています。

手動ドアに「はさむ・はさまれる」事故も多く発生しています(表3-2)。

表3-2 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ものがつまる等	ぶつかる	やけど	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	かまれる・刺さる	おぼれる
1位	人 41人	階段 124人	食物 44人	その他の家具 22人	食器類 19人	手動ドア 42人	ハサミ・爪切り 18人	動物等 10人	浴槽 4人
2位	椅子 35人	椅子 61人	たばこ 33人	ベッド 16人	味噌汁・スープ 17人	椅子 10人	ナイフ 10人	日用品 虫 魚貝類	
3位	その他の家具 32人	ソファ 43人	その他の玩具 27人	机・テーブル 15人	お茶・コーヒー類 熱湯	エレベーター 6人	食器類 5人		
4位	机・テーブル 31人	ベッド 40人	電池 20人	人 12人	各13人	鉄道車両のドア 4人	スライサー 3人	各2人	
5位	自転車の補助いす 26人	人 28人	包み・袋 15人	壁 8人	ポット・魔法瓶 12人	自動車のドア 3人	おろし金 1人		

※「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、ラック等

※「ぶつかる」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、タンス等

※「ものがつまる等」におけるその他の玩具とは、ミニカーの部品、シール、粘土等

ウ 1歳の事故事例

【事例1 椅子から落ちる】

昼食後に椅子の上で立っていたところ転落してテーブルの角に頭をぶつけ受傷した。（1歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

- 歳児と比べ、活発に動くようになります。
- ✓ 普段から目を離さないよう注意しましょう。
- ✓ 椅子などに座らせる時は、チェアベルト等を活用し、大きな事故にならないように工夫しましょう。

【事例2 薬の誤飲】

親に処方された薬を目を離した際にこどもが飲んでしまった（1歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

- ✓ 医薬品は、こどもの手の届くところに置かないようにしましょう。
- ✓ 医薬品は、薬理作用があるため保管や管理には細心の注意を払いましょう。
- ✓ シロップ等、こどもが飲みやすいように味付けしてあるものは、冷蔵庫に入れておいても、自ら取り出して飲んでしまうことがあるため、保管・管理には十分注意しましょう。

【事例3 歯ブラシが刺さった事故】

自宅で歯ブラシを咥えた状態で前のめりに転倒し、歯ブラシを抜いた際に口腔内から出血があった（1歳 中等症）。

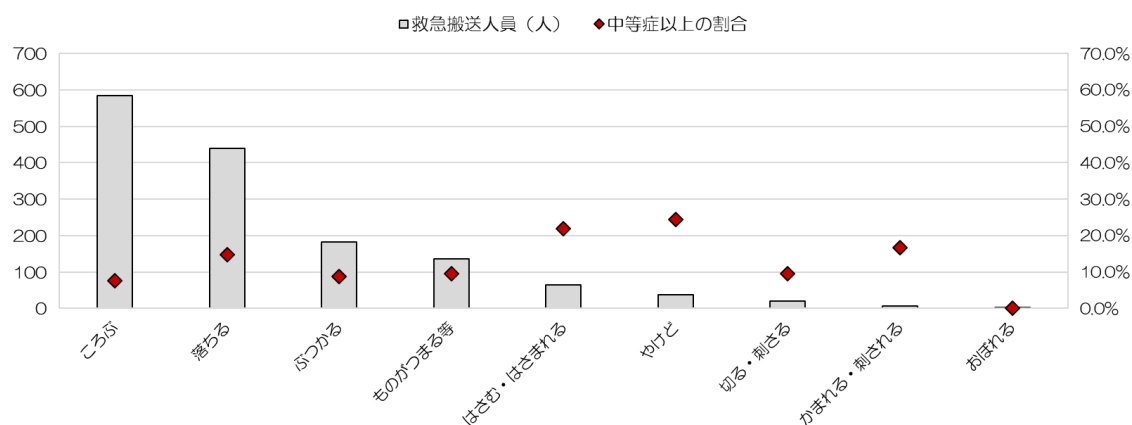
【事故防止ポイント】

- 歯ブラシが口腔内に刺さる事例も発生しています。
- ✓ 歯ブラシを口に入れたまま、歩いたり走ったりさせないようにしましょう。
- ✓ 不安定な場所で歯みがきをしていて、転落した事例もあることから、椅子や踏み台等に乗った状態で歯みがきをさせないようにしましょう。
- ✓ 歯みがき中に人や物と接触し、受傷するケースも多くあるため、歯みがき中は保護者が付き添い、周囲にも注意を払いましょう。

④ 2歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

「ころぶ」事故や「落ちる」事故が多く発生しています（図3-8）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	585人	440人	182人	136人	64人	37人	21人	6人	1人
中等症以上の割合	7.7%	14.8%	8.8%	9.6%	21.9%	24.3%	9.5%	16.7%	0.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-8 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

「ころぶ」事故、「落ちる」事故ともに階段が関係する事故が多く発生しています。

運動機能が発達し、自由に動き回ることができるようになってくるため、家の中を走り回って家具等に「ぶつかる」事故も発生しています（表3-3）。

表3-3 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

順位	種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺される	おぼれる
1位	椅子	40人	116人	机・テーブル	その他の玩具	手動ドア	カップ種 黒湯	ナイフ	動物等	浴槽
2位	自転車の補助イス	33人	椅子	その他の家具	菓子 魚等の骨	鉄道車両の戸袋 自転車	各6人	ハサミ・爪切り	針・ヘアピン・釘等	
3位	机・テーブル	21人	ソファ	ベッド	各8人	各4人	ポット・魔法瓶	針・ヘアピン・釘等		
4位	その他の家具	18人	人	人	電池 ビー玉類	日用品 鉄道車両のドア	味噌汁・スープ 鍋	各2人		
5位	ベッド	16人	ベッド	手動ドア	各7人	各3人	各3人	ガラス瓶		

※「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、ラック等

※「ぶつかる」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚等

※「ものがつまる等」におけるその他の玩具とは、ブロック型の玩具、シール等

ウ 2歳の事故事例

【事例1 階段から落ちる事故】

自宅の屋内階段を10段程度転落し、頭部を受傷した（2歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

階段に関係する事故は多く発生しています。

- ✓ベビーゲートを設置し、常にロックするなど、こどもが階段に近づかないような環境をつくりましょう。
- ✓高所からの転落・墜落は重症化しやすいため十分注意しましょう。

【事例2 ボタン電池の誤飲】

計量器のボタン電池が亡くなっていることに親が気づき、こどもに聞くと電池を飲み込んだと言った。（2歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

ボタン電池は放電能力が高いため、非常に短時間で消化管壁に潰瘍を作ります。

- ✓こどもが飲み込めそうなものは、こどもの手の届くところに置かないようにしましょう。
- ✓こどもから見えるところで電池交換をするのはやめましょう。

【事例3 手動ドアにはさまれる事故】

こどもの手が扉の蝶番側にかけたまま親が誤って扉を閉めたため、手の中指を挟み受傷した。（2歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

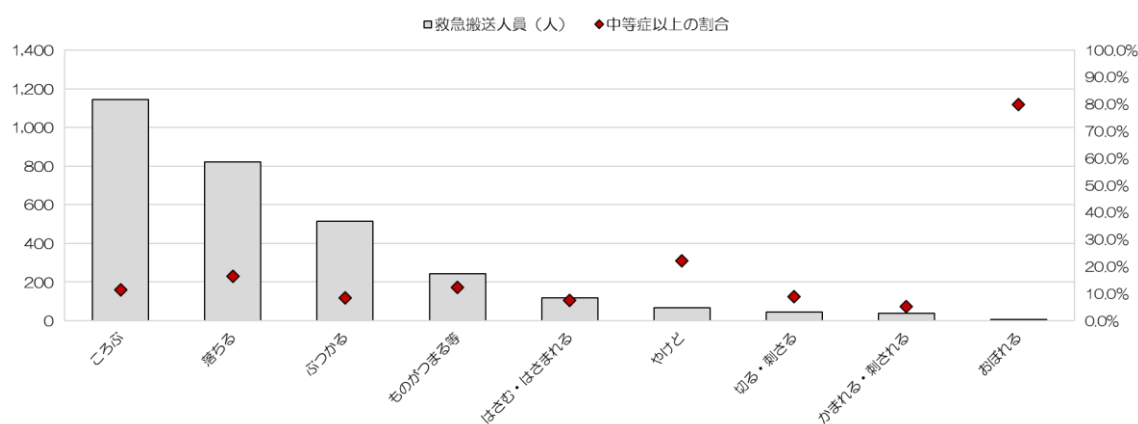
「はさまれ」の原因で一番多いのは**手動ドア**です。こどもの手や足は大人より小さく、狭い隙間でも入ってしまいます。

- ✓指の切断に至ることもあるので、ドアの開閉時は周囲を確認しましょう。
- ✓ドアの蝶番側は、指はさみを防止するグッズなどでカバーすることも事故防止に効果的です。

⑤ 3歳～5歳

ア 事故種別ごとの搬送人員

3歳から5歳まででは、「ころぶ」事故が最も多くなっています（図3－9）。



※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3－9 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

イ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

3歳から5歳まででは、両親や兄弟、友達と遊んでいてころんだり、階段や机・テーブルに躓いてころぶ事故が多く発生しています。（表3－4）。

表3－4 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

順位	種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	やけど	切る・刺さる	かまれる・刺さる	おぼれる
1位	椅子	51人	階段	その他の家具	アメ玉類	手動ドア	カップ類 味噌汁・スープ	ナイフ	動物等	浴槽
2位	段差	48人	椅子	机・テーブル	その他の玩具	自転車	各11人	ハサミ・爪切り	魚貝類	プール
3位	机・テーブル	43人	ベッド ソファ	人	魚類の骨	自動車のドア	熱湯 食器類	食器類 ガラス片 針・ヘアピン・釘 等	虫	
4位	その他の家具	41人	各51	壁・天井	ビー玉類	エレベーター	各7人		耳かき・綿棒	
5位	自転車の補助いす	40人	人	ベッド	菓子	椅子	鍋	各2人	串・楊枝	
			45人	24人	14人	4人	6人		1人	

※ 「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、ラック等

※ 「ぶつかる」におけるその他の家具とは、テレビ台、本棚等

※ 「ものがつまる等」におけるその他の玩具とは、ブロック型の玩具、マグネット、スーパーボール等

ウ 3歳～5歳の事故事例

【事例1 ころぶ事故】

キックボードに乗っていたところ縁石に衝突し、後方へ転倒し受傷した（4歳 軽症）。

【事故防止ポイント】

3歳になると運動能力も高くなり行動範囲が広がっています。

✓危険や安全の判断がまだ十分にできていないので、危険な行動は繰り返し教えてあげましょう。

【事例2 遊具からの墜落・転落】

滑り台で遊んでいて高さ1.5mの位置から転落し顔面を受傷した（5歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

墜落事故は重大事故につながる可能性が高い事故の一つです。

遊具からの転落事故のほか、窓やベランダに置いてあった椅子や室外機にのぼり、誤って墜落する事故も発生しています。

✓ベランダへの出入口の窓などには、こどもの手が届かない位置に補助鍵を取りつけましょう

✓ベランダや窓の近くには、こどもがのぼれるものを置かないようにしましょう。

【事例3 カップ麺によるやけど】

熱湯を入れたカップ麺を誤って転倒させ、火傷を負ってしまった。（3歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

テーブル上に置かれた熱いものが入った容器をこどもが引き寄せ、やけどを負う事故が多く発生しています。

✓やけどのおそれのあるものは、こどもの手の届くところに置かないようにしましょう。

✓テーブルの隅など、こどもの手の届きやすいところに熱いものは絶対に置かないようにしましょう。

(2) 6歳～12歳（小学生）の事故

ア 年別搬送人員

小学生の年代では、令和6年中に5,069人が救急搬送されています（図3-10）。

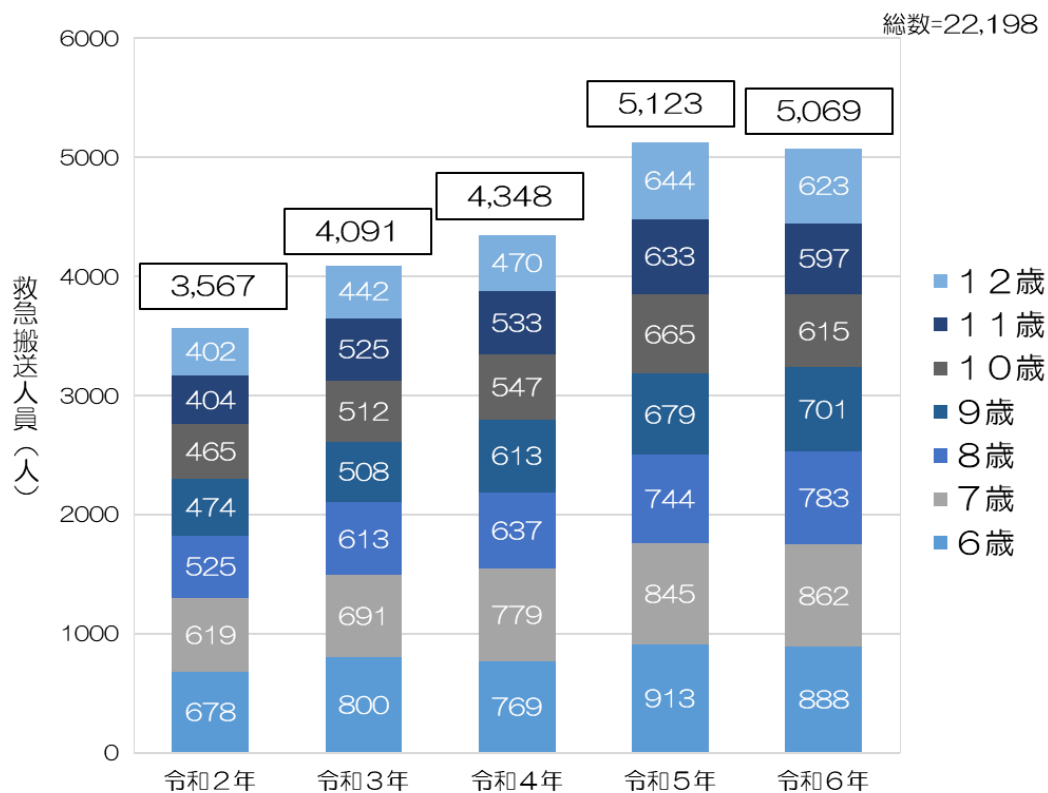


図3-10 年別の救急搬送人員（6歳～12歳）

イ 月別搬送人員

月別では、5月から7月に多く搬送されています（図3-11）。

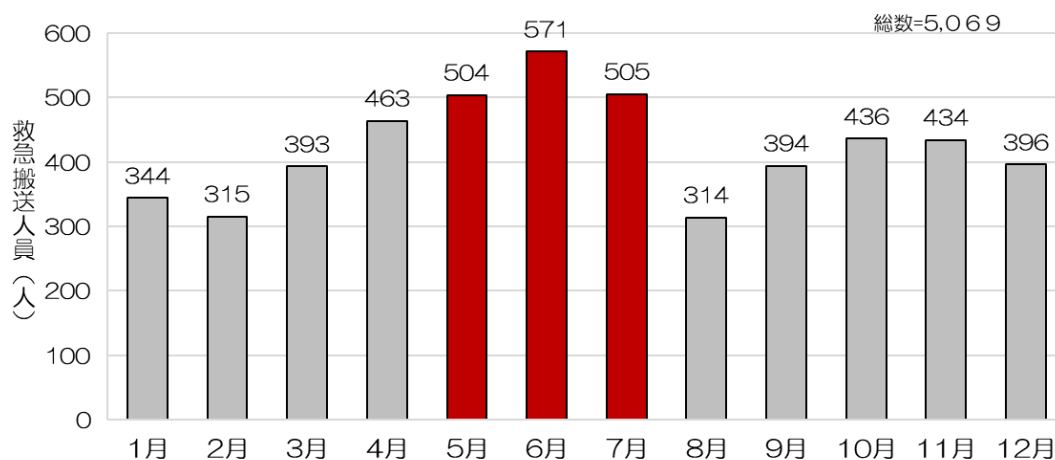


図3-11 月別の救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所のほかに学校・児童施設等が多くなっています。また、公園・遊園地・運動場等での事故も多く発生しています（図 3-12）。

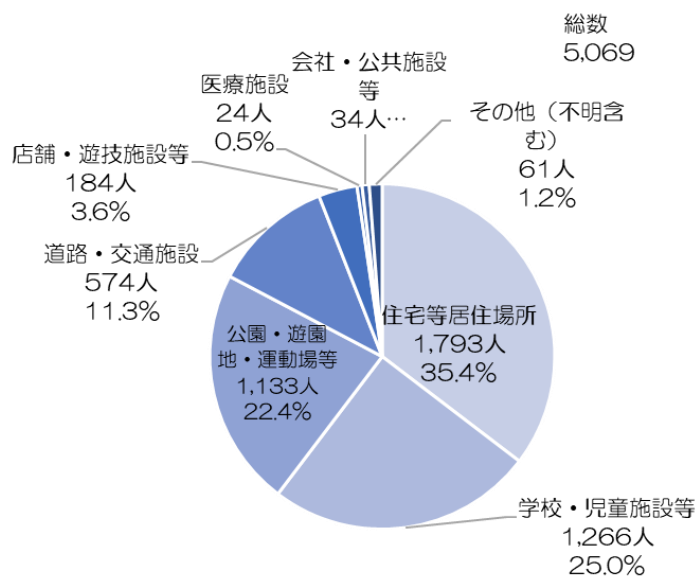
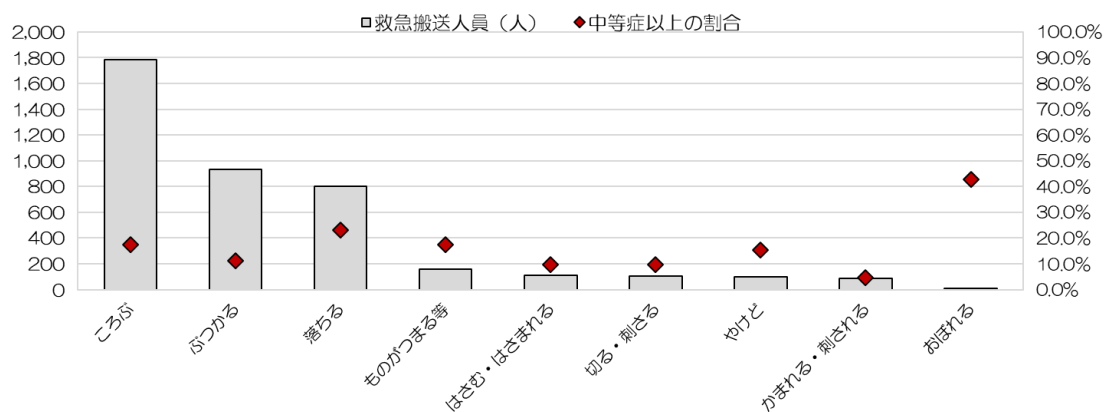


図 3-12 発生場所別の救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

6 歳から 12 歳まででは、「ころぶ」事故が多く発生しています（図 3-13）。



事故種別	ころぶ	ぶつかる	落ちる	ものがつまる等	はさむ・はさまれる	切る・刺さる	やけど	かまれる・刺される	おぼれる
救急搬送人員	1,785人	933人	803人	156人	113人	103人	97人	85人	7人
中等症以上の割合	17.4%	11.1%	23.2%	17.3%	9.7%	9.7%	15.5%	4.7%	42.9%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図 3-13 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

こども同士で遊んでいる最中に「ころぶ」事故や「ぶつかる」事故が多く発生しています。

階段から「落ちる」事故も多く発生しています（表3-5）。

表3-5 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

順位	種別	ころぶ	ぶつかる	落ちる	ものが つまる等	はさむ・ はさまれる	切る・刺さる	やけど	かまれる・刺 される	おぼれる
1位		人 147人	人 224人	階段 149人	アメ玉類 菓子	手動ドア 26人	ナイフ 38人	カップ類 20人	動物等 25人	浴槽 河川
2位		段差 51人	ボール 86人	雲梯 52人	各18人	自転車 18人	ハサミ・爪切り 14人	味噌汁・スープ 14人	虫 18人	各3人
3位		椅子 31人	壁・天井 37人	滑り台 41人	魚類の骨 12人	鉄道車両の戸袋 窓・サッシ 自転車の補助イス	手動ドア 7人	ポット・魔法瓶 11人	魚貝類 9人	プール 1人
4位	その他の家具 スケートボード	柱 36人	フェンス・柵・塀 36人	硬貨 10人	各3人	ミシン 食器類	鍋 9人	針・ヘアピン・釘等 8人		
5位	各30人	机・テーブル 28人	段差 35人	魚介類 7人	各3人	各6人	麺類 8人	ミシン 7人		

※「ころぶ」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、靴箱、ロッカー等

カ 6歳～12歳の事故事例

【事例1 高所から落ちる】

公園内トイレの屋根から飛び降りて地面に着地した際に右手を受傷した（12歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

高所からの墜落は、生命に危険を及ぼす重大な事故となることから、保護者等は、危険性をこどもに教え、理解させましょう。

小学生の年代は、運動能力の発達に加え、身長、体重、運動量、俊敏性、冒険心の増大が事故につながっていると考えられます。危険が予測される行動も多く見られることから、安全教育による事故防止も不可欠です。



・ 13歳～18歳（中学生・高校生）の事故

ア 年別搬送人員

令和6年中は、4,173人が救急搬送されています（図3-14）。

令和2年から増加傾向となっています。

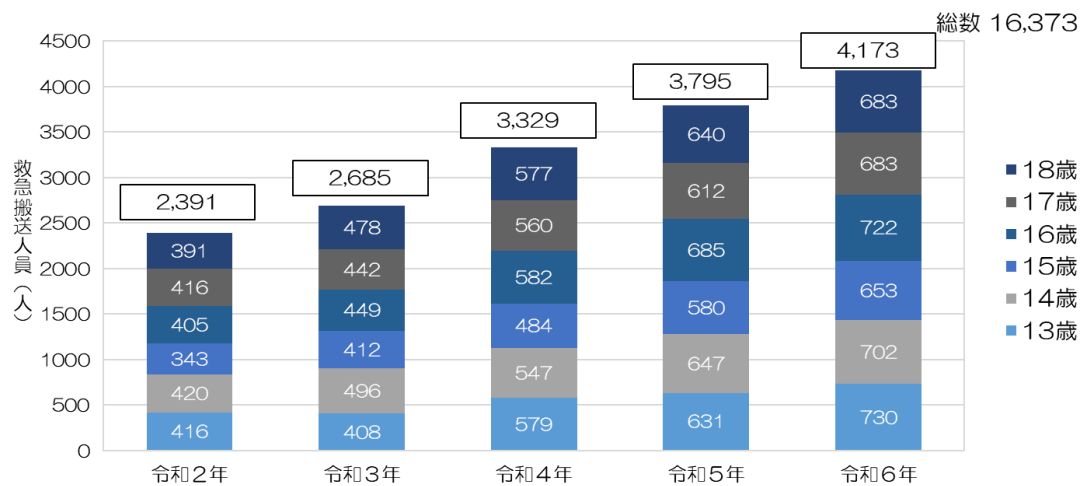


図3-14 年別の救急搬送人員（13歳～18歳）

イ 月別搬送人員

月別では、5月から7月に多く搬送されています（図3-15）。

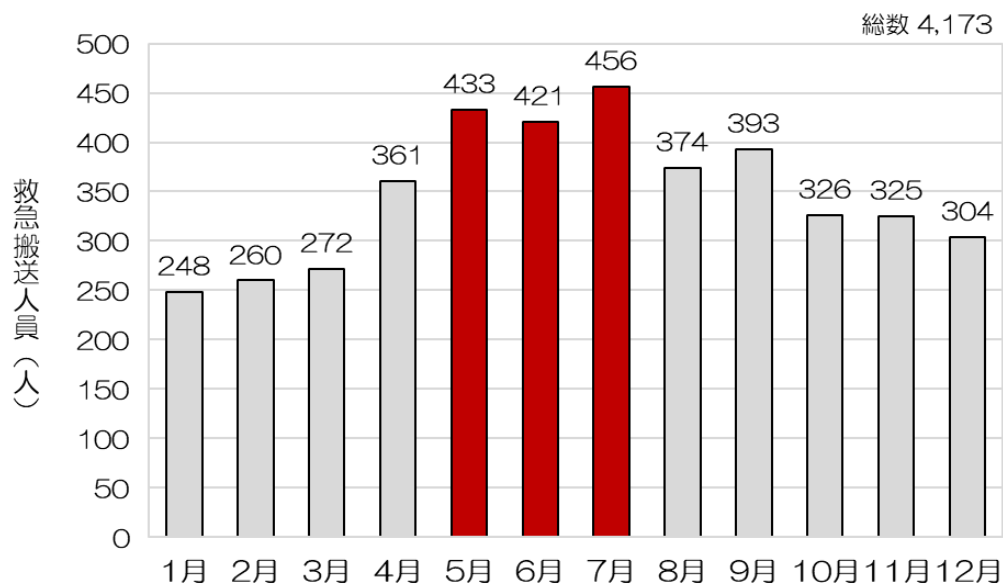


図3-15 月別の救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

全年齢別で唯一、学校・児童施設等が最も多く、次いで住宅等居住場所が多くなっています（図 3-16）。

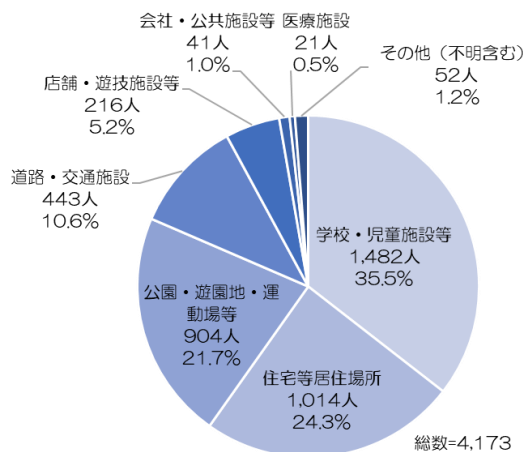
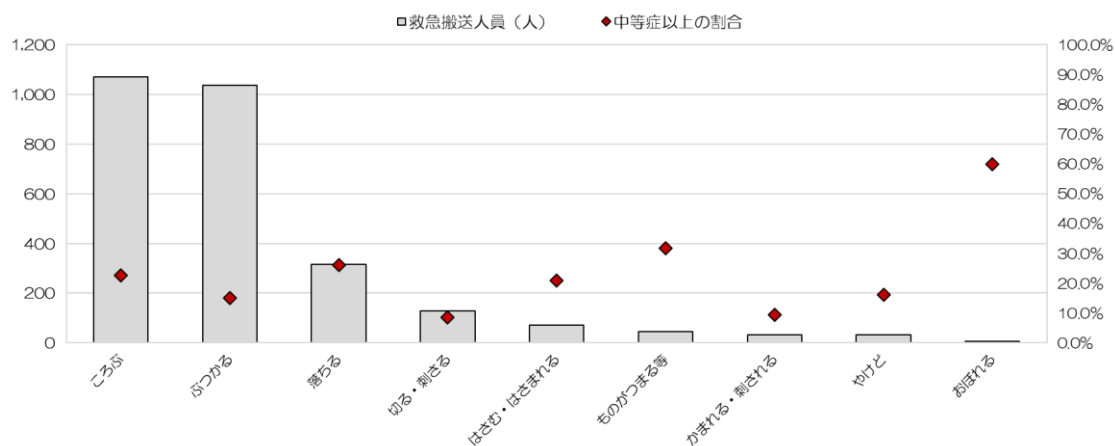


図 3-16 発生場所別の救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

事故種別ごとに見ると、「ころぶ」事故が最も多くなっています（図 3-17）。

「ぶつかる」事故では、学校の授業やクラブ活動での人同士の衝突やボール等による事案が発生しています。



事故種別	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	ものがつまる等	かまれる・刺さる	やけど	おぼれる
救急搬送人員	1070人	1037人	315人	128人	72人	44人	32人	31人	5人
中等症以上の割合	22.6%	14.9%	26.0%	8.6%	20.8%	31.8%	9.4%	16.1%	60.0%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図 3-17 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

人と「ぶつかる」事故が多く発生しています。

また、スポーツでボールにぶつかる等の事故も多くなっています（表3-6）。

表3-6 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	ぶつかる	落ちる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	ものがつまる等	かまれる・刺さる	やけど	おぼれる
1位	人 103人	人 359人	人 361人	ナイフ 48人	手動ドア 4人	魚等の骨 4人	虫 13人	カップ麺 7人	浴槽 河川
2位	スケートボード 27人	ボール 216人	ボール 214人	食器類 18人	鉄道車両の戸袋 その他の運動用具	野菜・果物 3人	動物等 6人	味噌汁・スープ 4人	各2人
3位	段差 25人	壁・天井 34人	壁 33人	スライサー 9人	各2人	たばこ 菓子 総菜	針・ヘアピン・釘 等 4人	鍋 3人	プール 1人
4位	椅子 15人	フェンス・柵・塀 柱	手動ドア 28人	ハサミ・爪切り 針・ヘアピン・釘等	扇風機 草刈機		ミシン 2人	天ぷら油 ポット・魔法瓶	
5位	自転車 14人	各11人	柱 11人	各3人	各1人	各2人	杖 1人	各2人	

カ 13歳～18歳の事事例

【事例1 人とぶつかる】

サッカー競技中に相手選手の肘が顔面にぶつかり受傷した。（16歳 中等症）。

【事例2 鉄棒から落ちる】

体育の授業中に高さ約2mの鉄棒から前のめりに転落し、両手首を受傷した（14歳 中等症）。

【事故防止ポイント】

中学生、高校生の年代では、運動中の事故が多く発生しています。

✓ウォーミングアップやストレッチは入念に行い、けがの予防に努めましょう。

✓指導者や保護者等は、普段の練習や競技の前には事故防止の注意喚起を行うとともに、不測の事態に備え、応急手当、AED（自動体外式除細動器）の使用方法等を身につけましょう。

- ・ 19歳～64歳の事故

- ア 年別搬送人員

令和6年中に46,935人が救急搬送されています（図3-18）。

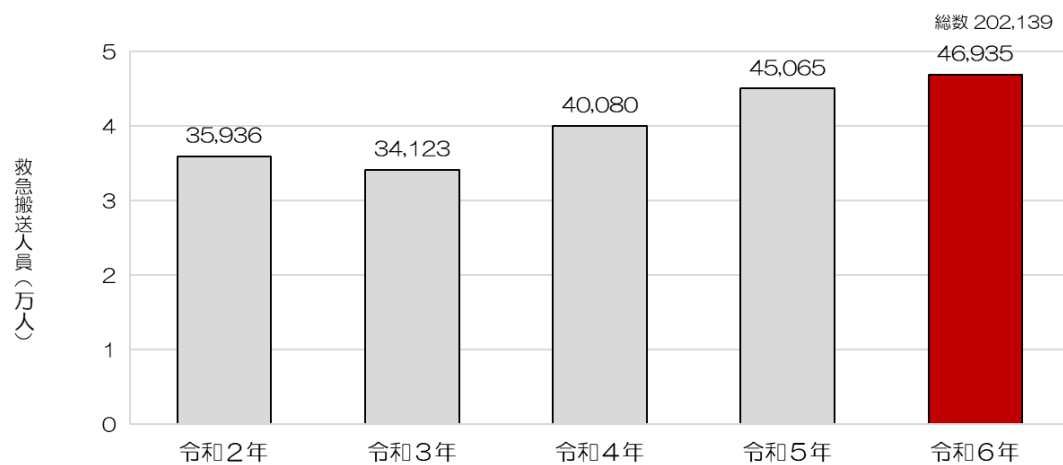


図3-18 年別の救急搬送人員

- イ 月別搬送人員

月別に見ると、7月と8月に多く搬送されています（図3-19）。

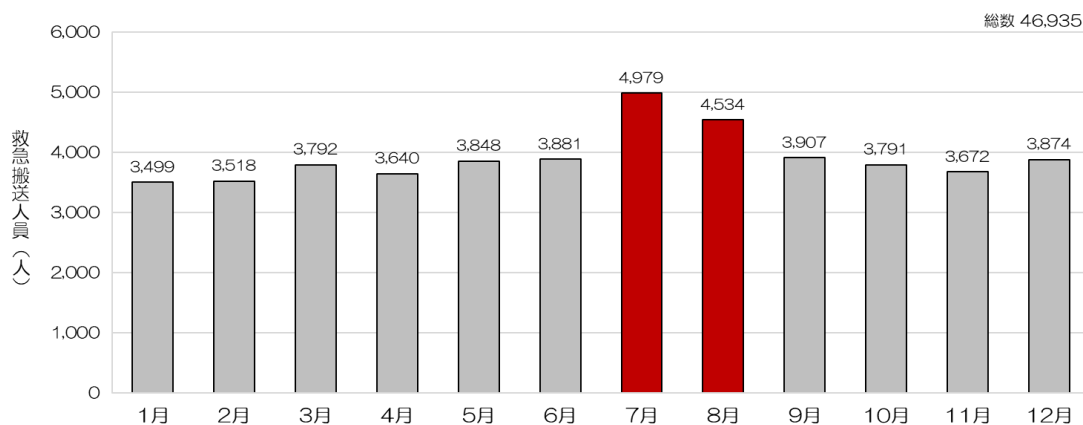


図3-19 月別の救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所、道路・交通施設での事故が多く発生しています（図 3-20）。

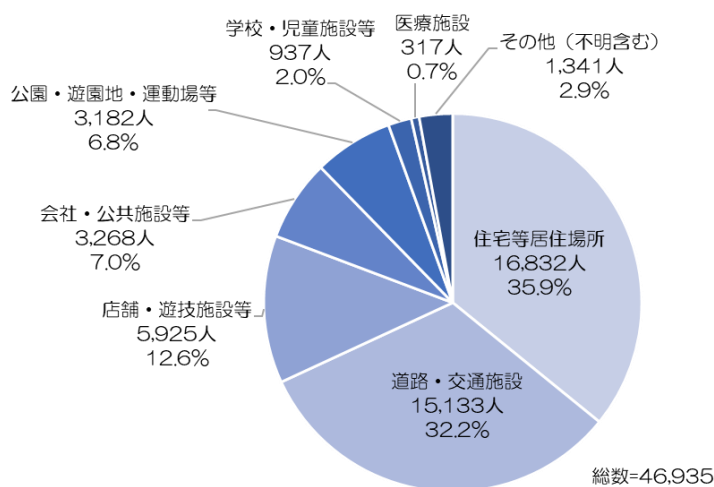
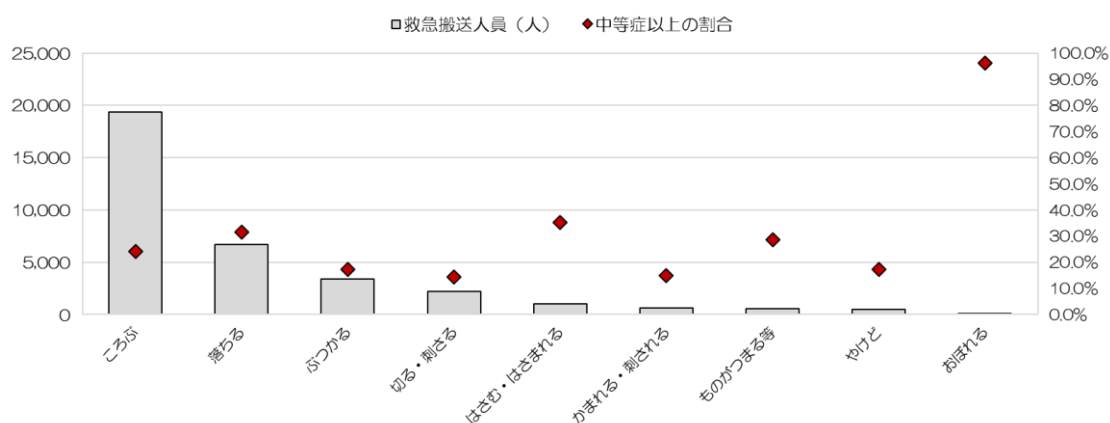


図 3-20 発生場所別の救急搬送人員

エ 事故種別ごとの搬送人員

「ころぶ」事故が最も多く発生しています。

「おぼれる」事故は中等症以上の割合が8割以上と最も高く、「おちる」事故と「はさむ・はさまれる」事故も3割以上が中等症以上となっています（図 3-21）。



事故種別	ころぶ	おちる	ぶつかる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	かまれる・刺される	ものがつまる等	やけど	おぼれる
救急搬送人員	19,392人	6,677人	3,395人	2,228人	1,050人	619人	576人	474人	27人
中等症以上の割合	24.2%	31.4%	17.2%	14.4%	35.2%	15.0%	28.6%	17.3%	96.3%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図 3-21 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

オ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

「ころぶ」事故は飲酒後の転倒が多くなっており、階段や段差でも多く発生しています。

「落ちる」事故は、階段が多くなっています（表3-8）。

表3-7 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

順位	種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	かまれる・刺される	ものがつまる等	やけど	おぼれる
1位	酒類	3,356人	3,388人	475人	ナイフ	手動ドア	動物等	包み・袋	鍋	浴槽
2位	段差	892人	375人	207人	食器類	その他の機械	虫	肉	熱湯	河川
3位	自転車	447人	201人	169人	スライサー	自動車	針・ヘアピン・釘等	洗剤等薬剤	天ぷら油	海
4位	階段	433人	128人	157人	電気のかざり	荷車	ナイフ	各32人	味噌汁・スープ	池
5位	椅子	326人	121人	139人	ハサミ・爪切り	フォークリフト	魚貝類	魚等の骨	ポット・魔法瓶	

※「ぶつかる」におけるその他の家具とは、テレビ台、棚、タンス等

※「はさむ・はさまれる」におけるその他の機械とは、攪拌機、ウインチ、梱包機等

カ 19歳～64歳の事故事例

【事例1 ホームから落ちる】

飲酒後、ホーム上を歩いていた際に誤って軌道敷内に転落し受傷した（30代 重症）。

【事故防止ポイント】

飲酒後や歩きスマホで駅のホームから墜落する事故が多く発生しています。
✓ホームの線路側を歩かないようにしましょう。

【事例2 機械に指をはさむ】

精米機のモーターの調子が悪く点検していたところ、モーターが突然動き出し、右手親指を受傷した（50代 中等症）。

【事故防止ポイント】

機械を稼働させたまま点検等を行い、受傷する事故も発生しています。
✓機械によるはさむ・はさまれる事故は重症化しやすいことを認識しましょう。
✓機械の点検、掃除、修理をする場合には、機械の電源を切り、コンセントを抜くなど、誤って電源が入ることがないことを確認してから作業しましょう。

(5) 65歳以上（高齢者）の事故

① 65歳以上（高齢者）

ア 年別搬送人員

令和6年中に98,056人が救急搬送されています（図3-22）。

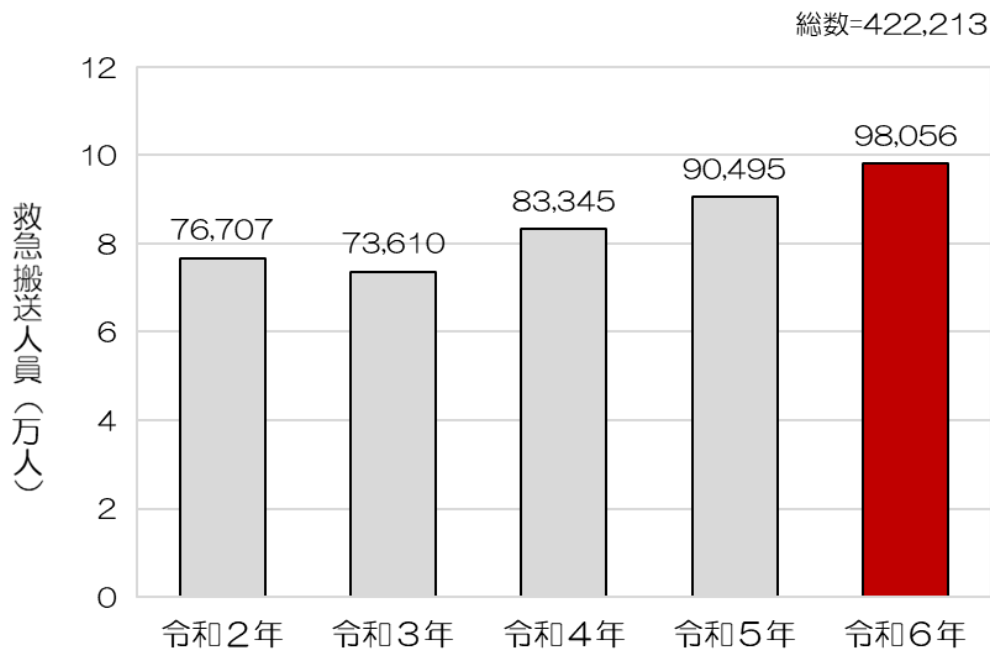


図3-22 年別の救急搬送人員

イ 月別搬送人員

月別に見ると、12月と7月に多く搬送されています（図3-23）。

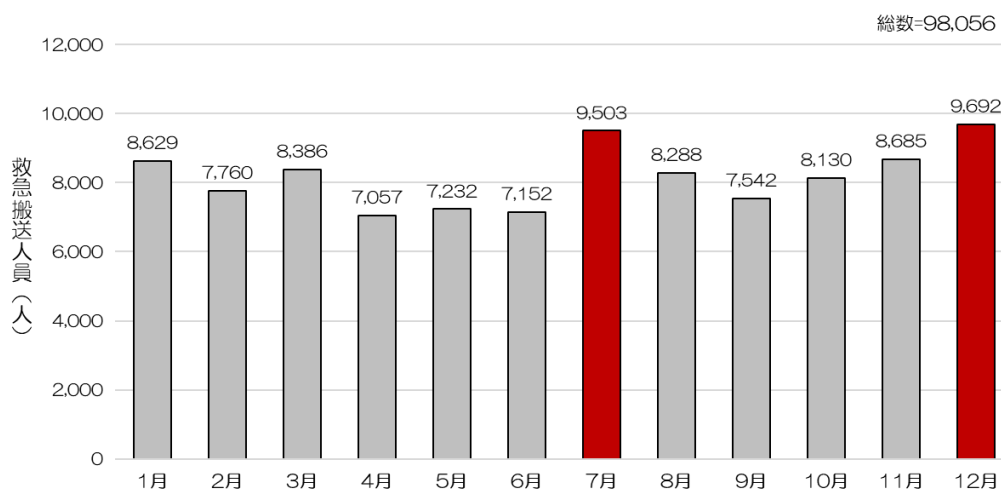


図3-23 月別の救急搬送人員

ウ 発生場所別搬送人員

住宅等居住場所での事故が6割を占め、道路・交通施設での事故と合わせると約9割を占めています（図3-24）。

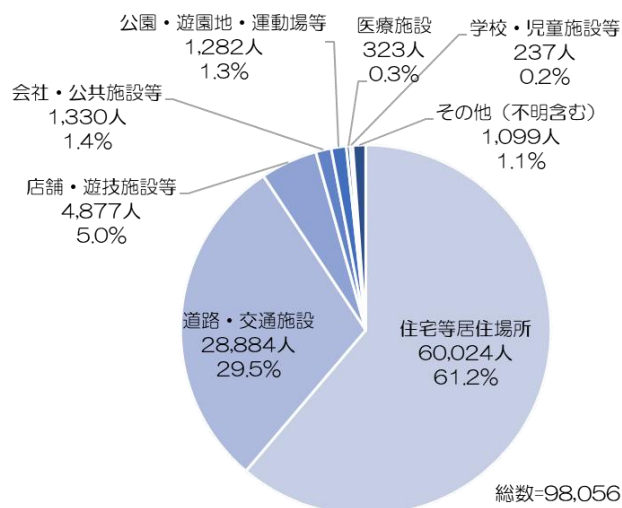


図3-24 発生場所別の救急搬送人員

エ 初診時程度別搬送人員

高齢者は入院を必要とする中等症以上となる割合が高く、4割以上となっています（図3-25）。

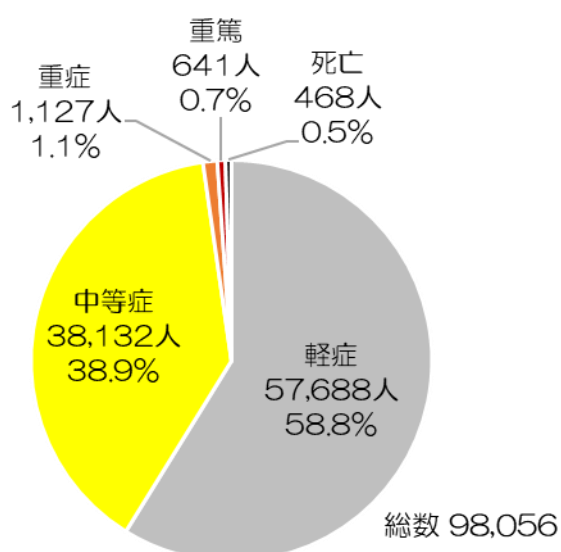


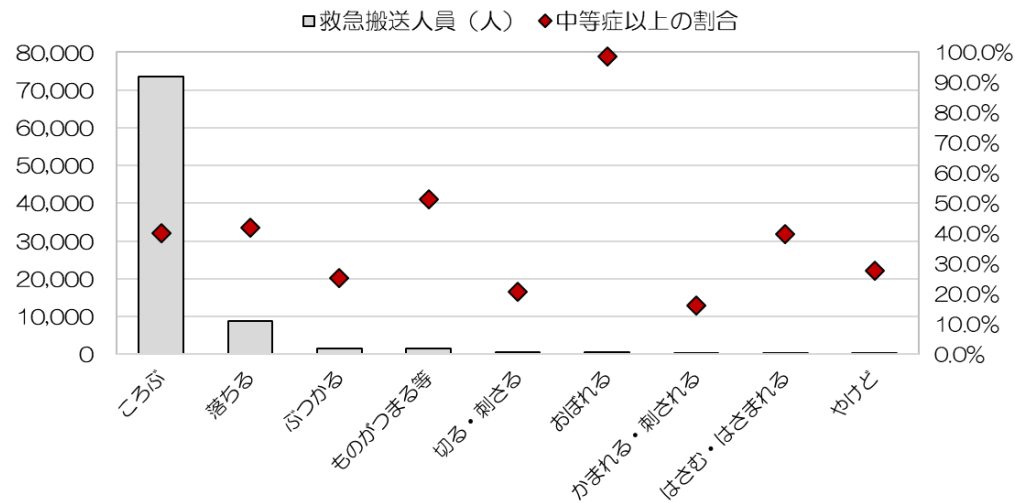
図3-25 初診時程度別の救急搬送人員

オ 事故種別ごとの搬送人員

65歳以上は中等症以上の割合が高いです。

- ・「おぼれる」事故は、98.6%（最多）
- ・「ものがつまる等」の事故は5割以上
- ・「落ちる」事故は4割以上

他の年代と比べ、重症化しやすくなっています（図3-26）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	切る・刺さる	おぼれる	かまれる・刺される	はさむ・はさまれる	やけど
救急搬送人員	73,500人	8,719人	1,623人	1,565人	457人	432人	399人	362人	180人
中等症以上の割合	40.1%	41.8%	25.3%	51.3%	20.8%	98.6%	16.0%	39.8%	27.8%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-26 事故種別ごとの救急搬送人員と中等症以上の割合

カ 事故種別ごとの事故発生の多かった要因（上位5つ）

「ころぶ」事故は、**段差や階段**で多く発生しています。飲酒に起因する事故も多く発生しています。

「落ちる」事故は、**階段やベッド**が多くなっており、「おぼれる」事故は、ほとんどが**浴槽**で発生しています（表3-8）。

表3-8 事故種別ごとの事故発生の多かった要因上位5つ

種別 順位	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	切る・刺さる	おぼれる	かまれる・刺される	はさむ・はさまれる	やけど
1位	段差	階段	人	包み・袋	ナイフ	浴槽	動物等	手動ドア	鍋 熱湯
	3,923人	4,240人	132人	153人	154人	423人	139人	41人	
2位	酒類	ベッド	壁	入れ歯	電気のかぎり	河川	虫	ベッド	各32人
	2,519人	976人	114人	118人	63人	8人	102人	29人	
3位	椅子	椅子	その他の家具	肉	食器類	池	人	自動車のドア	味噌汁・スープ
	1,616人	328人	96人	63人	33人	1人	96人	18人	
4位	ベッド	脚立・踏み台・足場	手動ドア	薬剤等	ハサミ・爪切り		入れ歯によるもの	その他の機械	ポット・魔法瓶 やかん
	1,006人	324人	90人	57人	29人		12人	10人	
5位	自転車	エスカレーター	柱	餅	スライサー		針・ヘアピン・釘等	その他の家具	各13人
	1,002人	175人	75人	54人	26人		6人	9人	

※ 「ぶつかる」におけるその他の家具とは、棚、タンス等

キ 65歳以上（高齢者）の事故事例

【事例1 餅を詰まらせる】

大福餅を食べていたところ、突然苦しみだし倒れ、声をかけたが反応がなかった（80代 重篤）。

【事故防止ポイント】

高齢者の「ものがつまる等」の事故は**5割以上**が中等症以上と診断されています。

✓食べ物は小さく切ってよく嚙んで食べましょう。

【事例2 包みの誤飲】

就寝前に薬を飲もうとした際、誤って薬包ごと飲み込んでしまった（80代 軽症）。

【事故防止ポイント】

高齢者が薬を服用する際は、パッケージを飲み込まないように、適時様子を見るなど注意を払いましょう。



【事例3 ころぶ事故】

自宅内のカーペットにつまずき転倒した際に右股関節を受傷した（60代 重症）。

【事故防止ポイント】

高齢者のころぶ事故の**4割**が中等症以上と診断されています。

- ✓個人に合った適度な運動を続け、体の機能の低下を防ぎましょう。
- ✓自宅内では整理整頓を心がけ、家具や敷物による転倒を防止しましょう。

【事例4 脚立から落ちる】

自宅の電球を交換しようと約1mの脚立に乗り作業をしていたところ、バランスを崩し転落した（70代 中等症）。

【事故防止ポイント】

脚立や踏み台に上がって作業や清掃をしていて転落する事故が多く発生しています。

- ✓脚立の天板の上に乗って作業しないようにしましょう。
- ✓安定した足場を選び、バランスを崩さないようにしましょう。
- ✓使用時は補助者に支えてもらいましょう。
- ✓年齢や個々の体力を勘案し、無理な作業は控えましょう。



② 65歳～74歳（前期高齢者）と75歳以上（後期高齢者）

ア 年別搬送人員

過去5年の推移を見ると、前期高齢者、後期高齢者ともに、令和3年まではコロナ禍の影響もあり減少傾向でしたが、令和4年から増加傾向に転じています（図3-27、図3-28）。

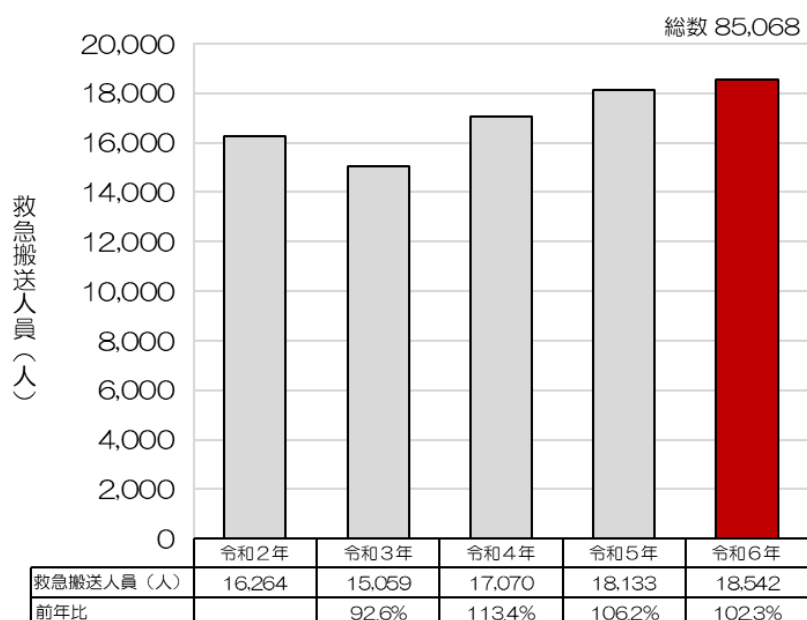


図3-27

年別の救急搬送人員（前期高齢者）

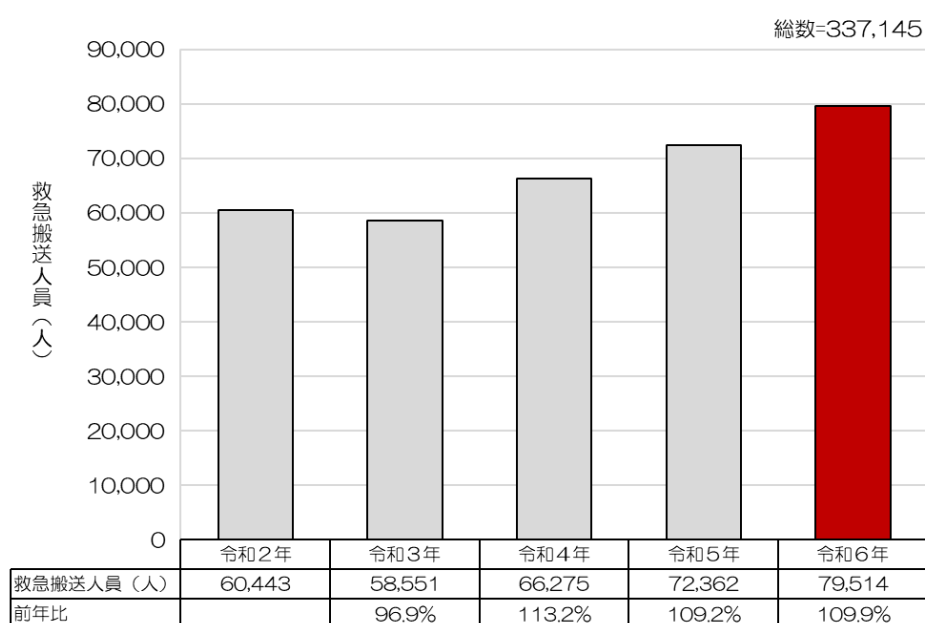


図3-28

年別の救急搬送人員（後期高齢者）

イ 初診時程度別搬送人員

前期高齢者では中等症以上の割合が約3割ですが、後期高齢者になると、さらに増加して4割以上を占めています（図3-29、図3-30）。

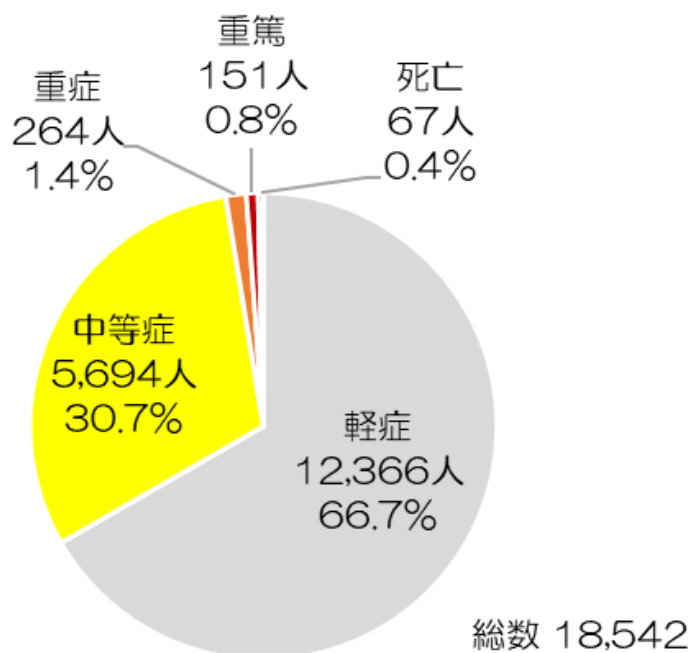


図3-29

初診時程度別（前期高齢者）

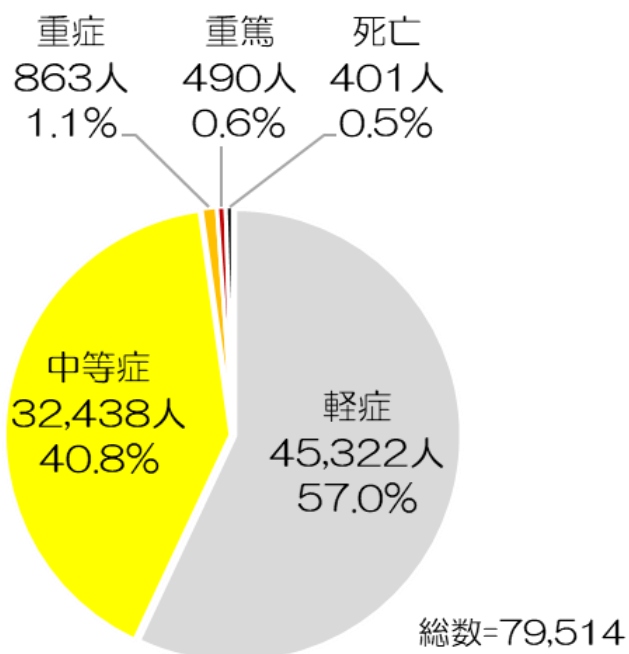


図3-30

初診時程度別（後期高齢者）

ウ 発生場所別搬送人員

前期高齢者では住宅等居住場所での事故が最も多く4割以上を占めています。

次いで多いのが道路・交通施設でこちらも約4割を占めています。

一方で、後期高齢者になると住宅等居住場所での割合が増加し、約7割を占めています（図3-31、図3-32）。

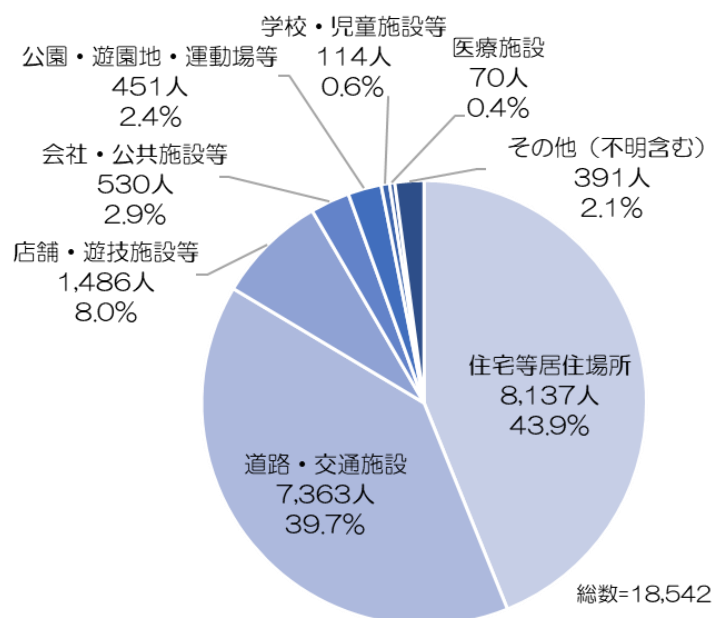


図3-31 発生場所別の救急搬送人員（前期高齢者）

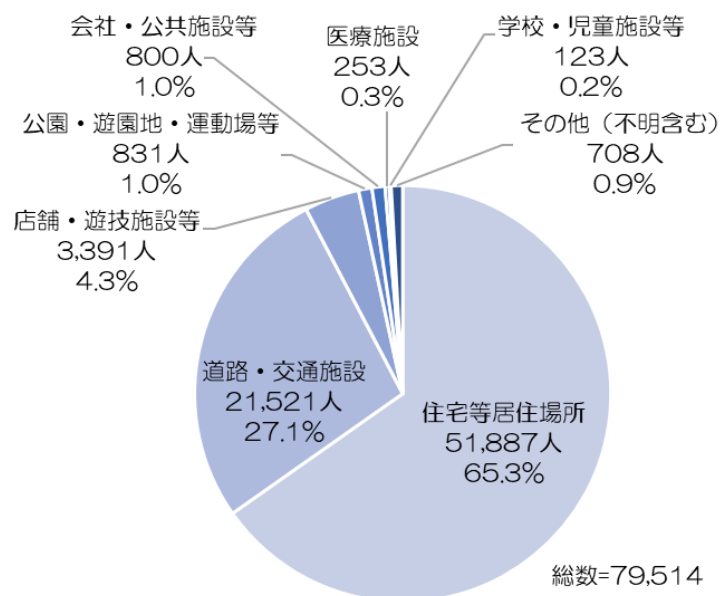
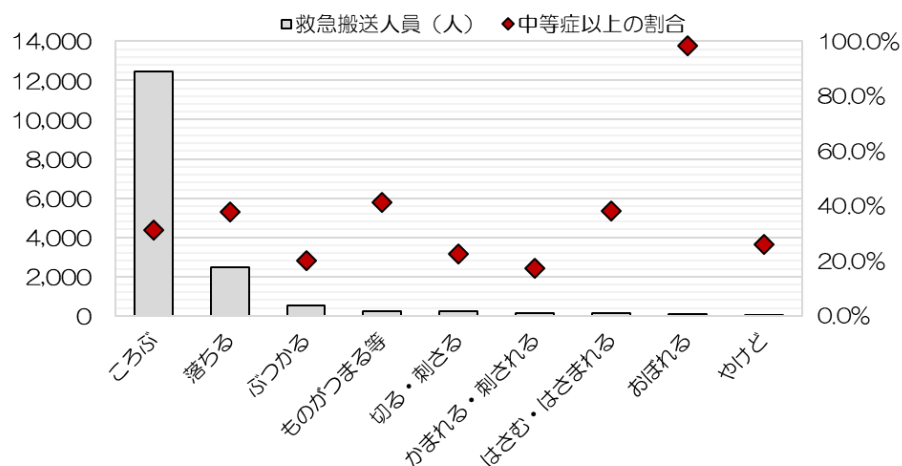


図3-32 発生場所別の救急搬送人員（後期高齢者）

エ 事故種別ごとの搬送人員

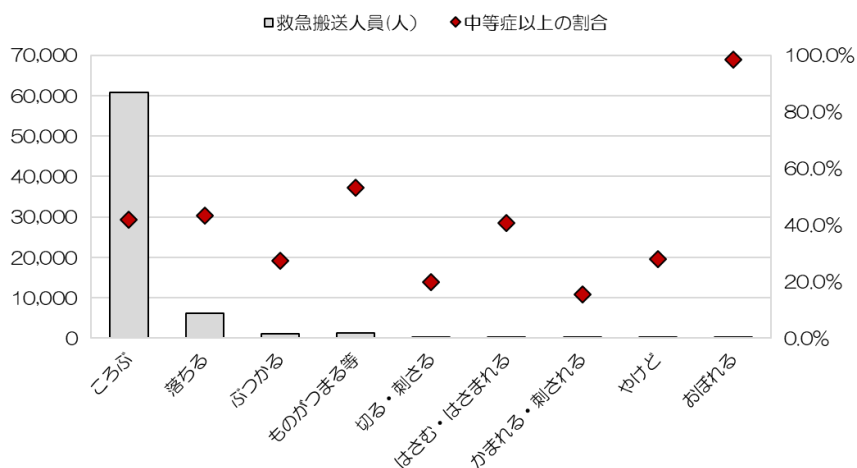
前期高齢者と後期高齢者で中等症以上の割合の高さを比較すると、「切る・刺さる」、「かまれる・刺される」では、前期高齢者が高くなっており、「ころぶ」、「落ちる」、「ぶつかる」、「ものがつまる等」、「はさむ・はさまれる」、「やけど」では、後期高齢者が高くなっています。「おぼれる」ではほぼ同率でした（図3-33、図3-34）。



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	切る・刺さる	かまれる・刺される	はさむ・はさまれる	おぼれる	やけど
救急搬送人員	12,441人	2,473人	503人	243人	208人	144人	126人	63人	58人
中等症以上の割合	31.2%	38.0%	20.1%	41.2%	22.6%	17.4%	38.1%	98.4%	25.9%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-33 事故種別ごとの救急搬送人員（前期高齢者）



事故種別	ころぶ	落ちる	ぶつかる	ものがつまる等	切る・刺さる	はさむ・はさまれる	かまれる・刺される	やけど	おぼれる
救急搬送人員	60,894人	6,208人	1,117人	1,311人	251人	236人	253人	122人	355人
中等症以上の割合	41.8%	43.3%	27.5%	53.3%	19.9%	40.7%	15.4%	27.9%	98.6%

※ 事故種別が「その他」、「不明」を除く

図3-34 事故種別ごとの救急搬送人員（後期高齢者）

2. 年齢層別での比較

・ 年代別搬送人員での比較

過去5年の年代別救急搬送人員を比較すると、各年代で増減の形は年ごとに異なりますが、令和6年は令和5年と比べ、すべての年代で増加しています。

また、増加数で見ると80代の増加数が最も大きくなっています（図3-35）。

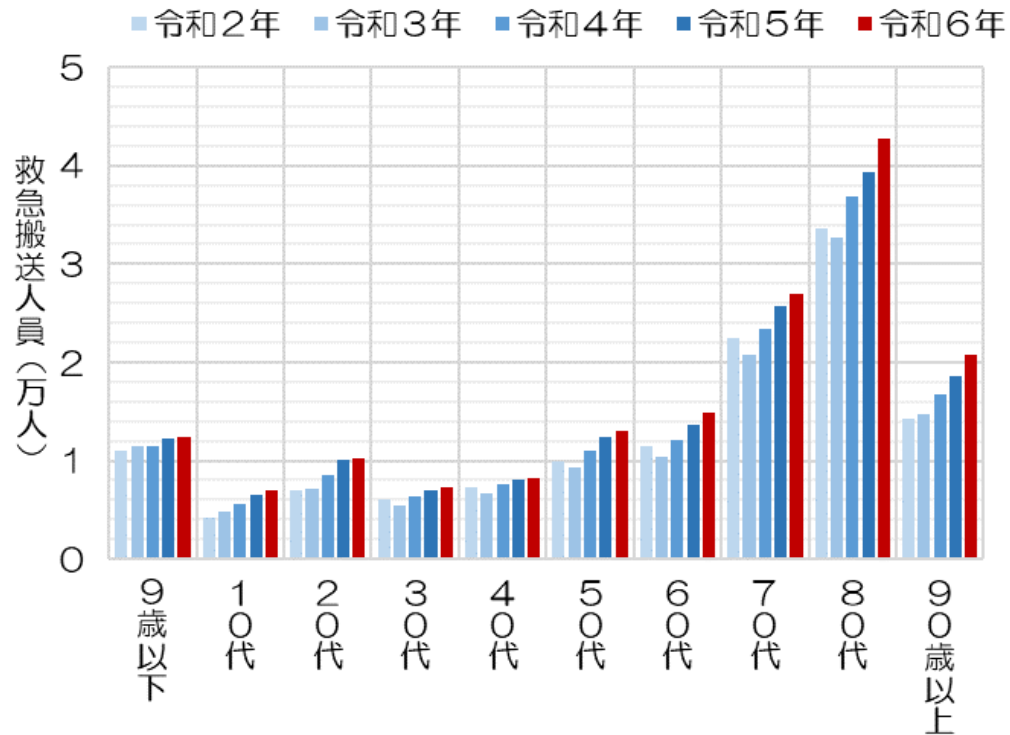


図3-35 過去5年間の年代別搬送人員

・ 事故種別（その他、不明を除く）での比較

令和6年では、「ころぶ」事故は全年代で最も多くの割合を占めており、40代を超えると全体の5割以上を占めています（図3-36）。

「ぶつかる」事故は、10代のみが「ころぶ」事故に続き2番目の割合を占めています（他年代では「落ちる」が2番目）（図3-36）。

「落ちる」事故は、9歳以下の年代以外では1割程度であるのに対して、9歳以下では2割を超えています（図3-36）。

「ものがつまる等」の事故では、9歳以下と70代以降の年代で割合が多くなっていきます（図3-36）。

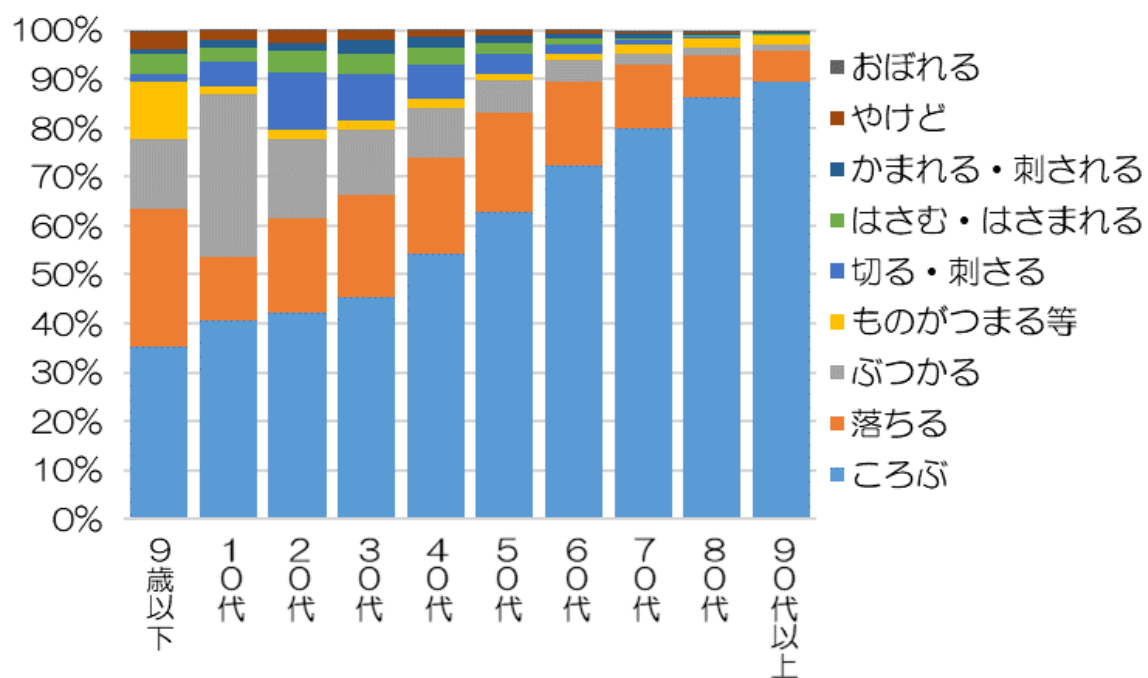


図3-36 年代別での事故種別割合（その他、不明を除く）

- 時間帯別での比較

令和6年は、9歳以下では17時台から20時台までの時間帯で1,000人以上が救急搬送されています。

10代では日中が多くなっており、20代から50代までにかけては夜間に増加しています。

60代では夜間に加えて、日中も多くの方が救急搬送されています。

70代以上では夜間の救急搬送が減少し、日中の中でも特に午前中に多くの方が救急搬送されています（図3-37）。

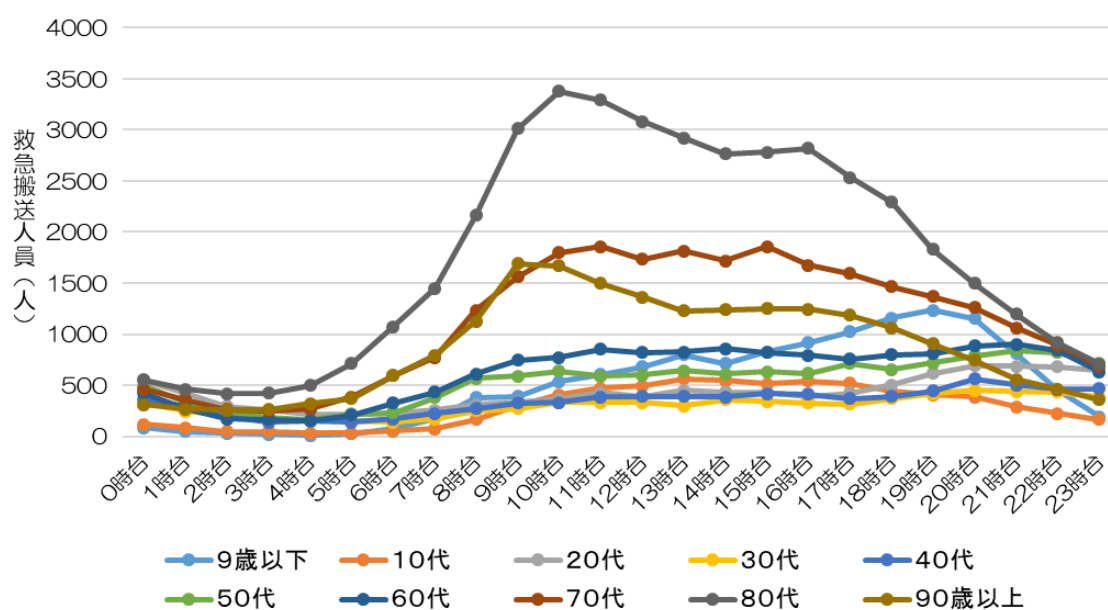


図3-37 年代別の時間帯別搬送人員（全体）